

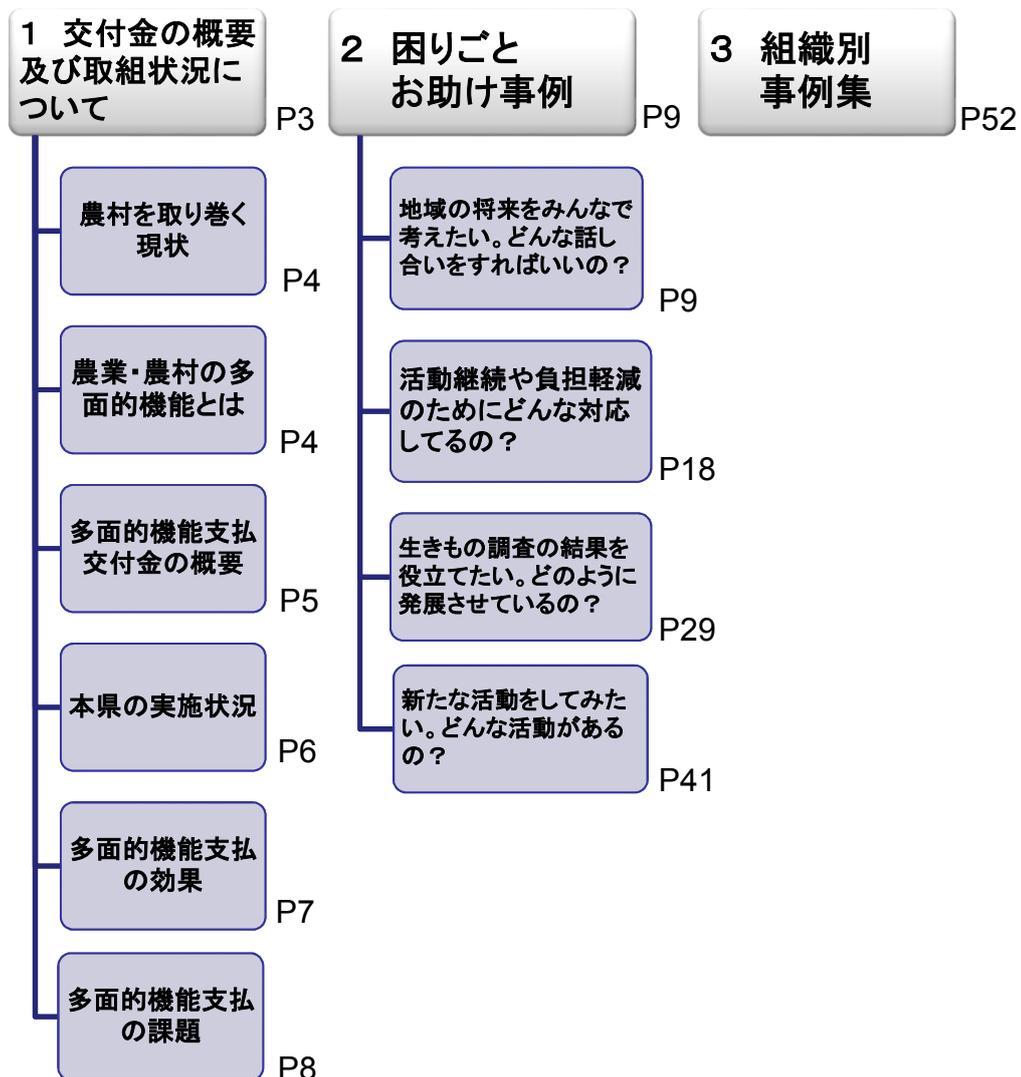
本事例集は、中間年評価において市町、活動組織が課題（困りごと）として取り上げているものを中心に、課題解決（お助け）に向けて、どのような取組を行ってきたのかを整理することにより、“同じような悩みを抱えている活動組織”に対し、取組の参考として提供するものです。

特に、課題としてあげられているものについては、特集としてとりまとめました。

## ○事例集の構成

3つの構成からなります。

- 1 交付金の概要や県内の実施状況等を紹介
- 2 特に課題となるものや効果的な取組を紹介
- 3 活動組織ごとに、活動内容事例を紹介



**1 交付金の概要及び取組状況について**

- (1) 農村を取り巻く現状 … 4
- (2) 農業・農村の多面的機能とは … 4
- (3) 多面的機能支払交付金の概要 … 5
- (4) 本県の実施状況（平成29年度） … 6
- (5) 多面的機能支払の効果 … 7
- (6) 多面的機能支払の課題（困りごと） … 8

**2 困りごととお助け事例**

- (1) 地域の将来をみんなで考えたい。どんな話し合いをすればいいの？

～地域資源保全管理構想（地域営農ビジョン）～

- ① 地域営農ビジョンとは … 10
- ② 地域営農ビジョンの作成について … 11
- ③ モデル地区で営農ビジョンを作成しました … 15

- (2) 活動継続や負担軽減のためにどんな対応してるの？

- お悩み1 高齢化や後継者不足により共同活動の継続が困難です … 19
- お悩み2 事務処理が多くて負担です … 22
- お悩み3 草刈りや泥上げなどの作業が辛いです … 24
- お悩み4 農家の減少により十分な活動ができません … 26

- (3) 生きもの調査の結果を役立てたい。どのように発展させているの？

～生態系保全対策～

- ① 生きもの調査の実施状況等について … 30
- ② 調査結果をもとに保全対策を検討しましょう！ … 31
- ③ 保全対策事例 … 32
- ④ 農産物のブランド化にも発展しています！ … 38
- ⑤ その他にもこんな取組がされています！ … 39

- (4) 新たな活動をしてみたい。どんな活動があるの？ … 41

～様々な活動を紹介しています～

**3 他の活動組織はどのように取り組んできたのだろう？ ～組織別事例集～ … 52**

～県内組織の取組を紹介しています～

# 1 交付金の概要及び 取組状況について



# (1) 農村を取り巻く現状

- 農業就業者人口は、平成7年から平成27年までの20年間で45%減少
- 基幹的農業従事者は年齢構成では、平成27年で65歳以上の割合は、6割以上
- 耕作放棄地は、平成7年から平成27年の20年間で約2.4倍増加、特に土地持ち非農家の割合が増加
- 平成32年には農業水利施設の約7割の施設が標準的な耐用年数に到達する見込み

図1 農業就業人口と基幹的農業従事者数 (資料:農林業センサス)

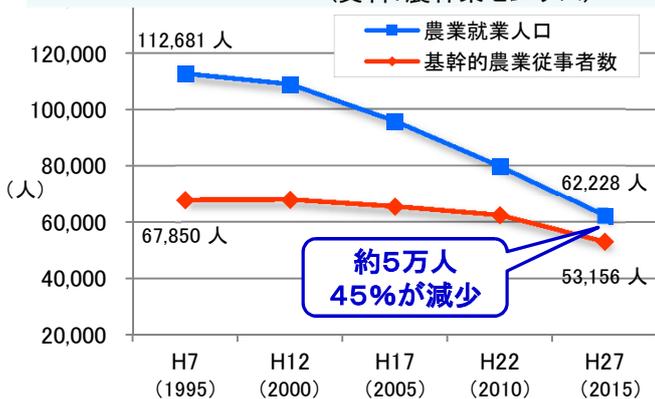


図2 基幹的農業従事者数の年齢構成 (資料:農林業センサス)

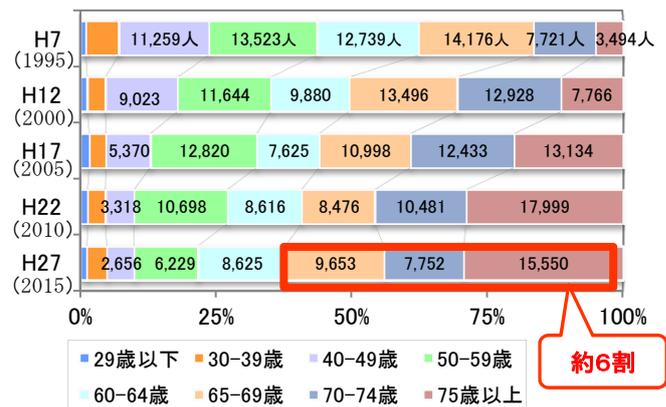


図3 農家の形態別の耕作放棄地面積 (資料:農林業センサス)

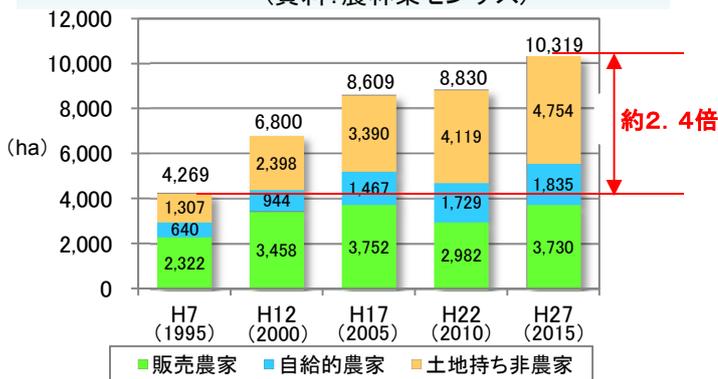
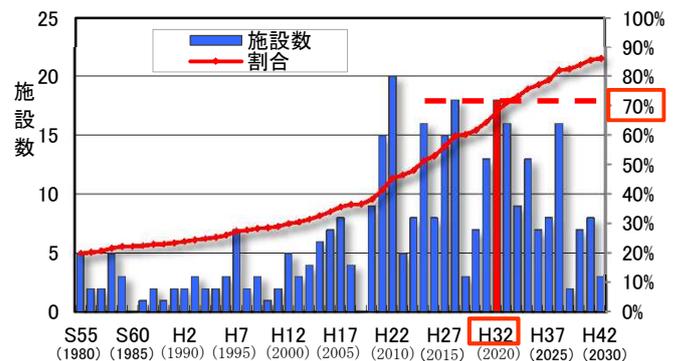


図4 耐用年数を迎える農業水利施設の推移 (資料:県農地整備課)



# (2) 農業・農村の多面的機能とは

## ○食料・農業・農村基本法 (平成11年)

### 第三条 (多面的機能の発揮)

国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等農村で農業生産活動が行われることにより生ずる食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能については、国民生活及び国民経済の安定に果たす役割をかんがみ、将来にわたって、適切かつ十分に発揮されなければならない。



# (3) 多面的機能支払交付金の概要

多面的機能支払交付金とは、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動に係る支援を行い、地域資源の適切な保全管理を推進するための交付金です。

## 農地維持支払

【主な対象活動】 ※活動必須

- ①地域資源の基礎的な保全活動  
(草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持など)
- ②地域資源の適切な保全管理のための推進活動  
(体制の拡充・強化、保全管理構想の策定など)



農地法面の草刈り



水路の泥上げ



ため池の草刈り



農道の路面維持

## 資源向上支払（共同）

【主な対象活動】

- ①施設の軽微な補修  
(水路、農道、ため池の軽微な補修など)
- ②農村環境保全活動  
(植栽による景観形成、生態系保全活動など)
- ③多面的機能の増進を図る活動  
(防災・減災力の強化、遊休農地の有効活用など)



植栽活動



生きもの調査



水路の補修



水田魚道の設置

## 資源向上支払（長寿命化）

【主な対象活動】

- ①農業用水利施設等の補修、更新、農道舗装等



水路壁のコーティング



未舗装農道の舗装

交付単価(1年あたり)

単位:円/10a

地目	農地維持支払	資源向上支払 (共同)	資源向上支払 (長寿命化)
田	3,000	1,800	4,400
畑	2,000	1,080	2,000
草地	250	180	400

※ 新規地区の採択は毎年度受付しております。

# (4) 本県の実施状況 (平成29年度)

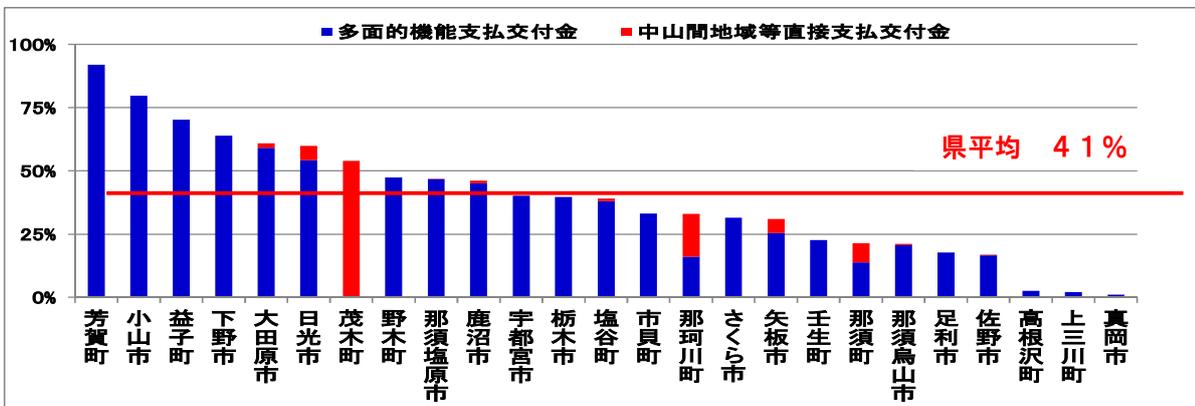
- 農地維持支払で、24市町、480組織、42,588haで取り組まれた。
- 農地面積に対する取組面積の比率（カバー率）は、39%となった。
- 多面的機能支払交付金と中山間地域等直接支払の両施策を合わせたカバー率は41%であった。
- 積極的に事業に取り組んでいる市町と取り組めない市町の格差が大きい。

## ① 平成29(2017)年度 多面的機能支払交付金の実施状況

項目	平成29(2017)年度実施状況			平成28(2016)年度実施状況			比較 (H29-H28)			
	全国	本県	全国順位	全国	本県	全国順位	全国	本県	順位の変動	
農地維持支払	活動組織数	28,290	480	29位	29,096	496	29位	▲ 806	▲ 16	0位
	取組面積(ha)	2,265,742	※42,588	12位	2,249,935	43,098	11位	15,807	▲475	▲1位
	カバー率	54%	39%	26位	54%	40%	25位	0%	▲1%	▲1位

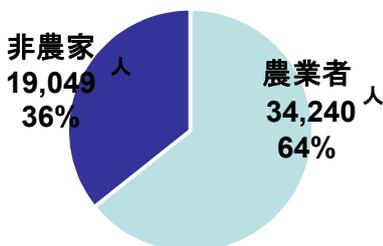
※取組面積…活動組織が共同活動を実施する農用地の面積

## ② 市町別多面的機能支払交付金と中山間地域等直接支払交付金の農振農用地農地面積に対する取組面積の割合

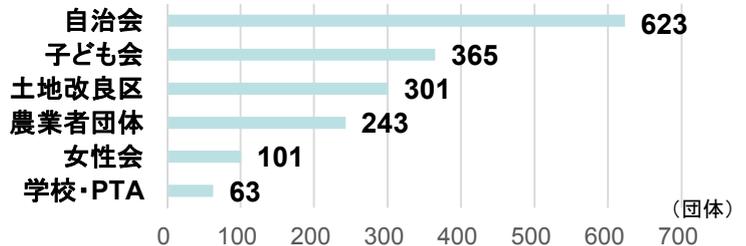


- 組織の構成は、農業者が約6割、非農家が約4割 ※いずれも平成29年度の実施状況報告書から集計
- 組織の構成のうち、団体では、自治会、子ども会、土地改良区が多く参加
- 構造変化に対応した保安全管理の目標は、中心経営体型、多様な参画・連携型が多い
- 多面的機能を増進する活動は、幅広い展開（生物多様性の回復等）が最も多い

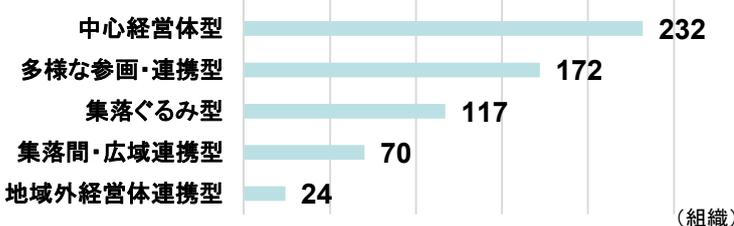
## ③ 組織構成 (農家、非農家)



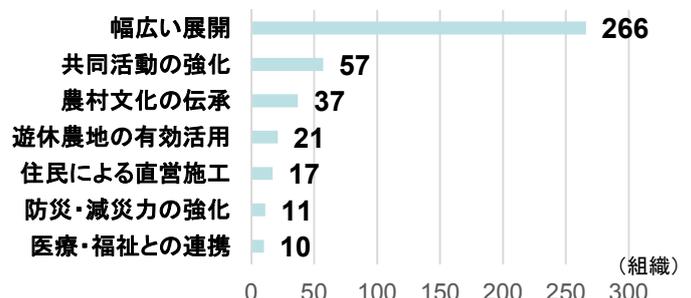
## ④ 組織の構成 (団体)



## ⑤ 構造変化に対応した保安全管理の目標



## ⑥ 多面的機能を増進する活動

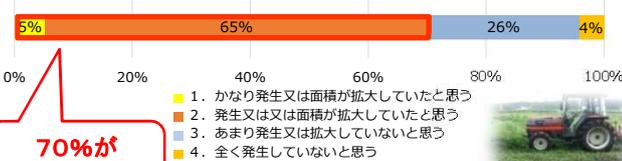


多面的機能支払活動組織へのアンケートの結果等から、多面的機能支払交付金には、「地域資源の保管理」、「農村環境の保全・向上」、「農村地域の活性化」、「構造改革の後押し」の4つの効果が現れていることが読み取れます。

## ① 地域資源の保管理

- ・遊休農地の発生や面積拡大を抑制
- ・鳥獣被害の抑制
- ・農業者の保管理作業の負担軽減

本交付金に取り組んでいない場合の遊休農地の発生・面積拡大 (H28アンケート結果) n=191



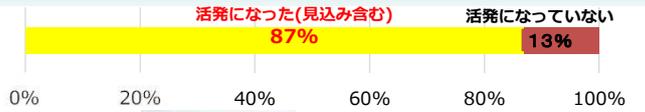
本交付金がなくなった場合の鳥獣被害の拡大 (H28アンケート結果) n=30



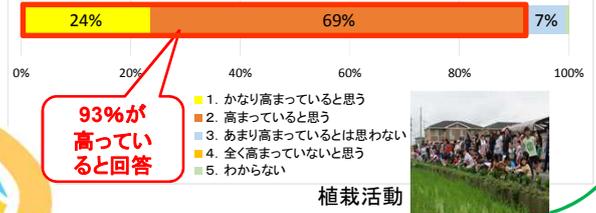
## ② 農村環境の保全・向上

- ・景観の保全・向上
- ・生態系や水質の保全・向上
- ・活動に対する関心や理解、協力意識の向上

本交付金の活動を契機とした生態系保全の取組の活発化 (H28市町村実態調査) n=23



景観形成・生活環境保全に対する理解、協力意識の高まり (H28アンケート結果) n=143



## ③ 農村地域の活性化

- ・地域コミュニティの維持・強化
- ・女性の活躍
- ・集落間、世代間の交流の活性化

地域が目指す方向についての話し合い (H28アンケート結果) n=199



- A. 多面的機能支払交付金きっかけで新たに始まった
- B. 前から取り組んでいて更に盛んになった
- C. 前から取り組んでいるが変化はない
- D. 取り組んでいない

生態系保全活動		H29	H28
参加人数(人)		18,282	14,273
内訳	子ども(中学生以下)	7,518	7,981
	大人	10,764	6,292

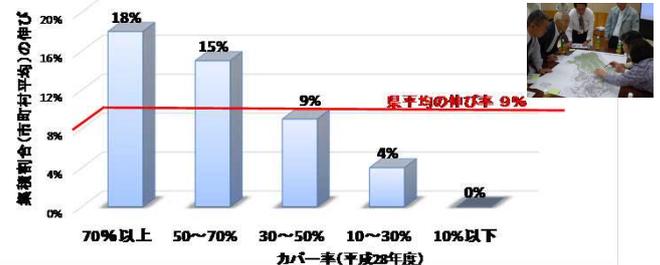


生態系保全活動参加者数 (H30アンケート結果) n=301

## ④ 構造改革の後押し

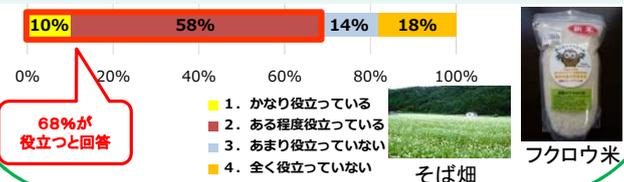
- ・担い手農家等への農地集積に向けた取組
- ・新たな生産品目の導入、6次産業化等
- ・生産基盤整備に対する意識向上

農地集積伸び率 (H24~H28) 農地集積について地域の話合いが活発化 (県農村振興課資料)



多面的機能支払交付金の農振農用地のカバ率が高い市町ほど、担い手への農地集積割合の伸びも大きい

農業生産基盤の実施・検討開始のきっかけ (H28アンケート結果) n=138



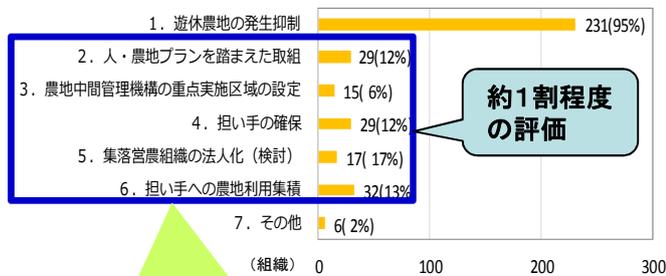
前ページで効果を紹介しましたが、一方で、多面的機能支払活動組織へのアンケート等の結果では、農業者の減少、高齢化等により、以下の課題（困りごと）がありました。

## ① 担い手への農地集積などを検討する地域資源保全管理構想の策定が進まない

### 中間年評価 地域の変化（市町評価）

- 遊休農地の発生抑制に対する評価は高い
- 人・農地プランを踏まえた取組や担い手への農地集積など検討する活動組織は1割程度

### 多面的機能支払の活動による地域の変化に対する市町評価



地域資源保全管理構想の策定が進まない

## ② 参加者の高齢化や減少により、活動継続が困難、事務や活動が負担

（平成28年度に活動を終了した組織へのアンケート結果 n = 13）

活動を終了する理由に以下の3つを上げています。

- 参加者の高齢化や減少により、継続が困難。（活動が負担）
- 世代交代が行われず、リーダーや役員がいない。
- 事務が負担。



項目	回数	割合
参加者が減り作業が大変	10	77%
事務が細かく大変	3	23%

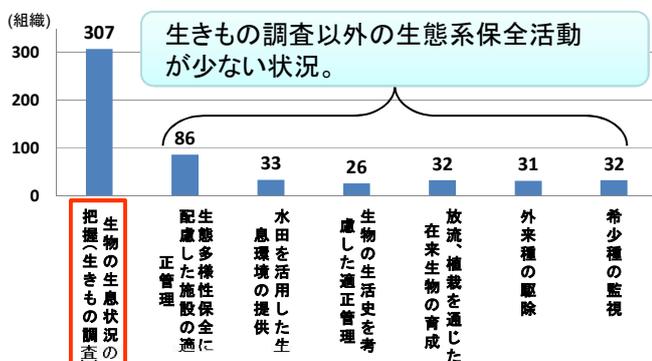
参加が減り作業が大変

事務が細かく大変



## ③ 生態系保全活動について指導やアドバイスがほしい

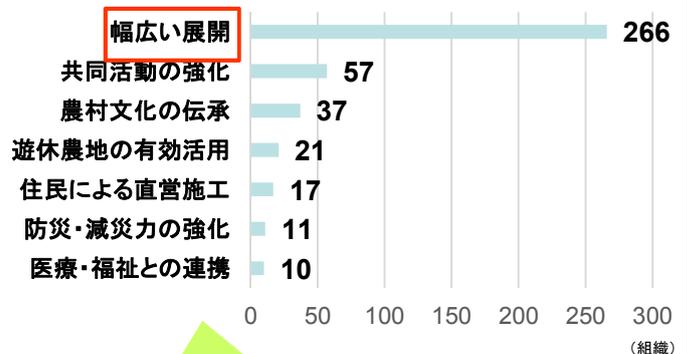
### 生態系保全活動の実施状況（H30アンケートより）



生きもの調査の結果をどう活かして良いか分からない

## ④ 多面的機能を増進する活動について幅広い展開（生態系の回復等）以外の活動があまり行われていない

### 多面的機能を増進する活動の実施状況（H29実施状況報告書より）



他にも取り組みたい活動はあるが、具体的にどんな活動ができるのか分からない